

## 令和元年度第1回青森市健康福祉審議会高齢者福祉専門分科会 会議概要

**開催日時** 令和元年8月20日(火) 14:00~15:50

**開催場所** 青森市福祉増進センター(しあわせプラザ) 3階 中会議室

**出席委員** 村上 秀一委員、木村 隆次委員、天内 勇委員、児玉 寛子委員、  
今 栄利子委員、三浦 裕委員、安井 眞木子委員 <<計7名>>

**欠席委員** なし

**事務局** 福祉部長 館山 新、福祉部次長 福井 直文  
介護保険課長 福島 清裕、高齢者支援課長 鈴木 久美子、  
健康づくり推進課長 柴田 一史、浪岡事務所健康福祉課長 小形 麻理、  
高齢者支援課副参事 樋口 正美、介護保険課副参事 田村 亜希世、  
介護保険課主幹 田澤 康治、介護保険課主幹 兼平 しのぶ、  
高齢者支援課主幹 斉藤 麻理、高齢者支援課主幹 向中野 葉子  
<<計12名>>

**会議次第**

- 1 開 会
- 2 福祉部長あいさつ
- 3 議 事  
青森市高齢者福祉・介護保険事業計画第7期計画の進捗状況について
- 4 その他
- 5 閉 会

### **議事 青森市高齢者福祉・介護保険事業計画第7期計画の進捗状況について**

事務局から、資料のとおり、青森市高齢者福祉・介護保険事業計画第7期計画の進捗状況について説明があった。

## 意見、質疑応答

### 【第1章 健康づくりと介護予防の強化】

#### ○委員

老人クラブが半減している。若い人が入ってこない。老人クラブに魅力を感じないためだろう。だから、老人クラブに入って良かった、おもしろいなという実感を何らかの方法で味わってもらいたい。また、参加しない会員にやっていることをお知らせすることも大事なことだ。このような中、昨年浪岡で有志により、一度消滅した老人クラブを復活させたとの話を聞いて、とてもうれしく思っている。

#### ○委員

前は老人クラブで様々な情報を得たり、リハビリをしたり、いろいろやっていたかと思うが、今はテレビあるいは介護保険に携わる方などから様々な情報を得ている。老人クラブのやり方を変えていくことも重要だと思う。

#### ○委員

昔は年齢的な区分で老人という認識をしていましたが、今は健康年齢を保つなどの意識が強くなり、自分は老人なんだろうかと考えさせられることがある。老人クラブへの加入となると、その辺を整理する必要があるのではないかと思う。

#### ○委員

一つは、こころの縁側の関係で、目標とするのは箇所数と開催数ではなく、やはり参加率だと思う。保険者機能強化推進交付金では、通いの場の参加率が項目に入っているはずである。目標として第7期計画のときに参加率を入れてほしいという話をしたが、そのときは厳しいという話があった。

来年4月から保険事業と介護予防の一体的事業が始まるが、狙っているところは、通いの場に来ている高齢者を群れとして見るのではなく、一人ひとりの生活機能のレベルを評価して、中には保健師がからむときには健診に行ってもらいたいとか、そういうことが求められている。

当然、青森市も準備に入っていると思うが、そこで必要なのが、通いの場にどれだけ参加しているか、そこを一人ひとりどう追いかけていくかという仕組みである。青森県後期高齢者医療広域連合でやっていくことにはなると思うが、そこをきちんと動かしていけば、結果的に進捗が遅れている健康寿命の延伸が少しでも改善できるのではないかと思う。

## 【第2章 保健・医療・福祉が一体となった地域包括ケアシステムの構築の加速と地域福祉の推進】

### ○委員

医療・介護連携の推進については、多職種の会議があまり開かれていないようだが、実は20年近く介護保険の事業をやっていて、地域の連携は既にできてしまっていると感じる。会議の形をとらないで効果が出ている可能性もある。現場の状況を見ていかなければいけないと思う。

### ○委員

既に20年近く介護保険の事業が続けられていて、地域の多職種連携は顔の見える関係になってきていることを実感している。

### ○委員

地域の中では、医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所といったいろんな事業所の方がつながっていて、どこかに相談すると適切なところにつながるような流れができているという印象がある。

市民の方がどれだけ医療と介護の連携に関して関心があるかということが、ここであがっていることだと思うが、専門職同士がきちんとつながることが大事で、市民の方に安心してもらえるような体制を引き続き取っていけるように、顔の見える関係をしっかり作っていくことが一番大事だと思う。

### ○委員

自分たちのやり方が正しいのか、他の地域包括支援センターはどうやっているのかとか、そういう連携がこれから必要になってくるのではないかと思う。

### ○委員

民生委員が一人暮らしの自宅を巡回していると伺っているが、民生委員は、高齢者がどういう状態になったら地域包括支援センターに紹介したらいいのか、どういう状態になったら認知症初期集中支援チームにつなげるのか、整理がされていないのではないかと思う。

民生委員の会合で認知症の方を早期発見して、どういう機関につなげていくのかとういことをやるともっと効果的なのではないかと思う。

### ○委員

認知症サポーターも地域福祉サポーターも登録人数は増えているが、認知症カフェ、こころの縁側づくり事業、両サービスとのマッチングに課題があるということが言えると思う。

今まで中心となってきた社会福祉協議会、民生委員、地域包括支援センターだけではなく、新しくやる気のある市民の方々のグループとか専門団体とかそういう人たちが手挙げをすることに對して門戸が開かれるような計画を考えていただきたいと思う。

○委員

地域ケア会議のやり方の工夫が必要であると思う。青森県介護支援専門員協会で、地域ケア個別会議をきちんと回して課題を抽出するという研修をやりますので、市内全域の地域包括支援センターの方々にぜひ参加していただきたいと思う。

予定では年内に2回開催するという事で動いている。

【第3章 尊厳が守られる暮らしの実現】

○委員

市民後見人の研修受講者数の中から、実際に市民後見人として活動している人はいるか。

○事務局

市民後見人の養成講座を受け、フォローアップ研修も受けた方が52人いるが、この中で実際に市長申し立てに対して、市民後見人として活動するという人は今のところいないのが現状である。一般の方が市民後見人としての活動ができるよう支援していきたいと思う。

○委員

きちんとフォローアップをする体制がなければ、市民後見人の活動はなかなか難しいものだという印象がある。フォローアップセンターのような形で市民後見人の活動を支援するシステムを作っていただければと思う。

○委員

高齢者の虐待の可能性があるときは、ケアマネージャーとして通報することを徹底していかないと大変なことになる。

保険者として、ケアマネージャーに対して伝えていただきたいと思う。

【第4章 安全・安心な暮らしの実現】

意見なし

【第5章 介護サービスの充実】

○委員

生活援助の訪問回数の多いケアプランの届出が義務化され、検証会議を行っているが、ケアマネージャーの研修だけではとても間に合わないと感じている。訪問介護事業所、通所介護事業所に対する教育を徹底的にしていかなければならない。いわゆる効果的なサービス提供ができていないのではないかなと思う。

一方で、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、デイケアはきちんとカンファレンスをやって、プロセスをきちんと踏んでやっているのだから、効果を見て行くような介護報酬体系になっている。地域サロンで十分いいのに、毎日のようにデイサービスに行っているなどの例が

見受けられる。保険者側から研修会を企画してほしいと思う。

ケアプランの点検をやって、どれくらい効果が出ているかを、いつか教えてもらえればと思う。

○委員

医療・介護の連携について、ケアマネージャーに新たに研修を開催するという話がありましたが、在宅の看取りは欠かせないので、医療とケアマネージャーとの連携は大事になると思う。

よろしく願いしたい。